

形 (1)

三年 組 番 名前

① 新兵衛は、自分の「猩々緋と唐冠のかぶと」(32・13)について、どのように考えていたのだろうか。次の手順に沿って、確かめてみよう。

① 「猩々緋と唐冠のかぶと」に対する新兵衛の考え方が端的に表されている単語を、②のアの表現から抜き出そう。

[]

② 新兵衛は、「猩々緋と唐冠のかぶと」と、自分の「実力」との関係を、どのように捉えているだろうか。次のア・イの表現を手がかりにして、①で答えた単語も使って説明してみよう。

イ	ア	34 ページ 6～11 行目	33 ページ 12～14 行目
<p>……中村新兵衛は、会心の微笑を含みながら、猩々緋の武者の華々しい武者ぶりを眺めていた。そして自分の形だけすらこれほどの力を持っているということに、かなり大きい誇りを感じていた。</p>	<p>「が、申しておく、あの羽織やかぶとは、申さば中村新兵衛の形じゃわ。そなたが、あの品々を身に着けるうえからは、我らほどの肝魂を持たいではかなわぬことぞ。」と言いながら、新兵衛はまた高らかに笑った。</p>		「猩々緋と唐冠のかぶと」と「実力」の関係

★ アとイでは、場面が変わっている。場面によって、新兵衛の考えにどのような違いがあるかに注意しよう。